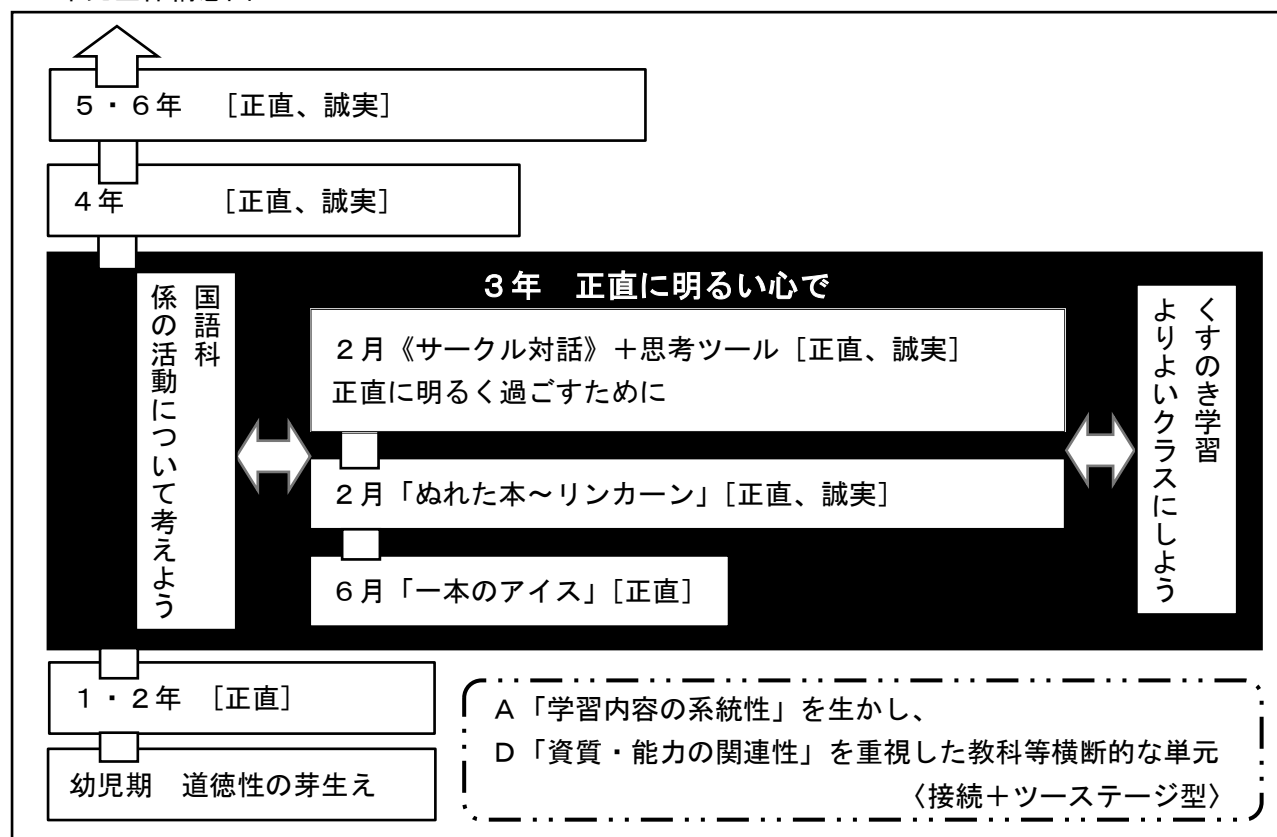


第3学年月組 道徳科（+国語科・くすのき学習【学級・学校】）

「心のなぞを解き明かそう！ —正直に明るい心で—」

指導者 石崎 正人

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、道徳における内容項目 [正直、誠実] を中心に構想した。過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。そのことで自分が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしたりしてしまうときがある。そうしたことを乗り越えようとするときに大切なのは、正直な心であり、自分自身に対する真面目さである。ここで言う「学習内容」とは、「内容項目」であり、「資質・能力」とは、道徳科の「よりよく生きようとする」、くすのき学習【学級・学校】の「参画する態度」、国語科の「伝え合う力」である。

本学級の子どもは、素直で明るく、一生懸命物事に取り組むことができる。係活動では、友達とアイデアを出し合いながら協力している様子が見られる。その中で、意見の対立から喧嘩になってしまうときがある。また、注意されてもそれを素直に聞き入れることができず、口論になることもある。

これまでに、道徳科において「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること」について考えてきた経験がある。正直にすることが大切であることは分かってはいるものの、それを誠実に行っていくのは簡単なことではない。よりよく生きていくためには、うそをついたりごまかしたりすることが自分自身を偽ることになり、正直でいることによって自分が成長できると感じる大切である。そうしたことを話し合う際に大切にしたいのは、国語科における「伝え合う力」である。教師がねらいとする道徳的価値について伝えるだけでは、価値の押し付けになってしまう。自分の考えを伝え、他者の考えを受け止めながら、子ども自身が話し合いを進めていくことによって、正直という価値について理解することが大切である。そして、自分の考えを明らかにし、話し合った内容と関連付けながら考えを深めていくために有効な手立てとして、思考ツールを取り入れて話し合いを進めていく。さらに、道徳科で培った資質・能力を生かし発揮する場としてくすのき学習【学級・学校】を設定した。話

合いを通して、学級の中でつくり上げた考えを発揮して、よりよいクラスにしていこうと普段の生活や係活動を行っていくことで、正直にすることは本当に大切なんだと気付いたり、これからも正直であり続けたいと心から思ったりすることができる。

### 3 単元のねらい

過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活しようとする意欲を育てる。

### 4 単元の展開（全3時間）

場面	主題と主な学習活動	評価の規準	時数
出合い	<b>正直に伝えるよさ</b> 「一本のアイス」 ○ 過ちを犯したときには素直に反省し、正直に伝えよることのよさについて考える。	● 正直であることの大切さを理解し、今後の生活に役立てたいという思いを持つことができたか。	1
追究	<b>真心からの行い</b> 「ぬれた本」 ○ 正直に真心を持って行動し、明るく生活しようとすることの大切さについて考える。	● 誠実に行動することのよさを理解することができたか。	1 本時 その1
振り返り	<b>正直に明るく過ごすために</b> ○ これまでの生活や学習を振り返り、正直に明るい心で過ごしていくために大切なことについて考える。	● 過ちは素直に改め、真面目に真心を込めて生活していきたいという思いが高まったか。	1 本時 その2

### 5 単元における指導と評価の工夫

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>正直にできたときやそうでないときのことを想起させることで、自分のこれまでの経験と照らし合わせながら考えることができるようにする。</li> <li>正直について事前のアンケートを提示することで、学級の中でいろいろな考えがあることを知り、もっと考えてみたいという思いを高める。</li> <li>事前に資料を読んでおくことで、課題を焦点化してじっくりと考えることができるようにする。</li> </ul>
追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをホワイトボードに書くことで、自分の考えを明らかにする。</li> <li>近くの友達と考えを比べることで、話合いに参加したいという思いを高める。</li> <li>課題に対する考えを出し合い、それをいくつかの考えに類型化することで、考えを比較しやすくする。</li> <li>出てきた考えを見て、対話しながらよりよい考えをつくっていくことで、正直・誠実という道徳的価値に迫っていけるようにする。</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>《サークル対話》で出てきた考えを、ファシリテーション・グラフィックを用いて整理していくことで、話合いの過程を視覚的に分かりやすくする。</li> <li>思考ツールを使って自分の考えとこれまでに学級でつくった考えをホワイトボードに書くことで、比較しながら自分の納得できる考えを導きやすくする。</li> <li>学び方がどうであったか、これまでの学習をしてきてよかったかななどを自己評価することで、今回の学びの持つ意味や価値について考えさせ、次の学びへとつなぐ。</li> </ul>

6 本時の授業（2／3）

- (1) 日時 平成31年2月1日（金）11:30～12:15
- (2) 場所 3年月組教室
- (3) ねらい 過ちは素直に改め、正直に真心を持って行動しようとする心情を育てる。
- (4) 準備物 挿絵、センテンスカード、ホワイトボード、ペン、道徳ノート
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
<p>1 アンケート結果から思ったことを話し合う。</p> <p>2 テーマを確認し、話し合う。</p> <p>3 これまでの話し合いを振り返って、考えたことをホワイトボードに書く。</p>	<p>アンケート結果を見てみよう。</p>	<p>○ 前時の板書を残しておく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正直でいたいと思っている人が多いな。</li> <li>・うそをついたことがある人も結構いるんだな。</li> <li>・正直にしたいけどできないときってあるよね。</li> </ul>	<p>○ アンケート結果を提示し、自分の身近なこととして考えていくことができるようにする。</p>
	<p>どうして正直にできないんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いことを知られたくないから。</li> <li>・失敗したことを認めたくないから。</li> <li>・悪いことをしてしまったことがばれて、怒られたくないから。</li> <li>・正直に打ち明けた後、気まづくなってしまうことがあるから。</li> <li>・知らない方が幸せなこともあると思うから。</li> </ul>	<p>○ ホワイトボードに自分の考えを書くようにする。V字チャートを用いて、後から友達の考えや最終的な自分の考えを書けるようにする。</p>
<p>正直にできないことを克服するためにはどうしたらいいんだろう。</p>	<p>○ 出てきた考えをファシリテーション・グラフィックの手法を用いて、iPadを用いてまとめていく。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いことをしてしまったという気持ちは自分の中にずっと残っていくからもやしたままだよ。</li> <li>・自分が責められるかもしれないけれど、悪いことを素直に認めることができたなら、気持ちを切り替えることができるんじゃないかな。</li> <li>・悪いことをしてしまったときには、怒られることを覚悟して思い切って伝えようっていう勇気が必要だと思うな。</li> <li>・相手の気持ちを考えていくと、素直に認めて謝ることができるかもしれないな。</li> <li>・弱い気持ちに打ち勝つことができるような強さが必要かもしれないな。</li> <li>・悪いと感じたときには、謝るだけじゃなくて自分のできることを一生懸命すると、相手に悪かったという気持ちが伝わると思うよ。</li> </ul>	<p>○ 子どもたちの手で話し合いを進められるように、似た考えを出し合い、その後いろいろな考えを比べていくようにする。</p> <p>● 課題に対する自分の考えを持って話し合いに参加しているか。 [記述、発表]</p>	
<p>話し合いを通して考えたことを書こう。</p>	<p>○ 自分の考えと話し合いの内容を関連付けながら、納得できるものを書くよう促す。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか自分から打ち明けるのは難しいけれど、失敗は誰にでもあることだから、これからは勇気を持って正直にしたい。</li> <li>・自分もみんなも正直でいると心が明るい自分で見られると考えていたから、これからもこの気持ちを大切にしたい。</li> </ul>	<p>● 話し合いを通して、誠実にしたいという思いが高まったか。 [ホワイトボード、様態]</p>	

## 7 評価の具体的な方法

〈自己効力感〉の高まっている姿を評価する視点を、二つの欲求が満たされているか、資質・能力が高まっているかの二つの軸として考え、話合いの様子やつぶやき、ホワイトボードや道徳ノートの記述などから〈自己効力感〉の高まりを見取っていく。

### (1) 「出会い」の場面

〈自己効力感〉が高まっている姿		自分の生活を想起し、問題について考えてみたいと思う姿
	二つの欲求	資質・能力
視点	充実感が得られそうだと感じているか。	正直であることの大切さについて考えたいと思っているか。
目指す姿	○ 正直という価値についてもっと考えてみたいと思っている。 [発表、様態]	○ 正直にできたときやそうでないときの経験を想起している。 [発表、様態]

### (2) 「追究」の場面

〈自己効力感〉が高まっている姿		自分の持ち得ていない価値観に出会い、考えを広げ深めようとしている姿
	二つの欲求	資質・能力
視点	充実感を得ているか、人とつながるよさを感じているか。	正直や誠実に対する自分の考えを持ち、話合いを通して多面的・多角的に更に考えようとしているか。
目指す姿	○ 自分の考えを伝えたいと感じ、話合いに進んで参加している。 [発表、様態] ○ そんな考えもあったのか、他の人の考えを聞いてみたいと思っている。 [発表、様態]	○ 話合いの内容をよく聞いて、いろいろな考えに触れながら正直や誠実について更に考えようとしている。 [発表、様態、記述] ○ 学級の中で一番大事なものをつくっていている。 [発表、様態]

### (3) 「振り返り」の場面

〈自己効力感〉が高まっている姿		実生活に生かしていきたいという思いを持っている姿
	身に付けた資質・能力を生かしたり発揮したりしようとしているか	
視点	話合いを通して、正直にすることのよさについて自分が納得できるものを見付けている。	
目指す姿	○ 学習してよかったという充実感や達成感を感じている。 ○ 正直にすることのよさについて自分が納得できるものを見付け、生活に生かしていている。 [道徳ノート、様態]	